平成 22 年度　事務事業事後評価調書（平成　21　年度事業）

整理番号	5 － 2

1　事務事業の表示

※ ■　：　該当

事務事業名	食育推進事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		保健係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	葛西隆		氏名	佐々木希美枝
事業の概要	乳幼児期から成人期までの一貫した食育事業を推進することにより、健康増進･生活習慣病予防及び生活の質の向上を図ることを目的に離乳食教室等栄養改善･食育に関する事業を実施する。					

全体計画	/単年度繰返
（平成 20 年度～ 24 年度）	
事業費 国･道支出金	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	725 千円
事業費計	725 千円

実施方法	■	直営		民間委託		その他（　　）
第 5 期 総合計画（前期）	■	登載事業		非登載事業	優先度	B

事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり･雄武～保健･医療･福祉の充実～
	基本施策	6	保健･医療の充実
	単位施策	1	主体的な健康づくりの促進
	事務事業の種類	■	自治事務　□ 法定受託事務
	その他計画･根拠等		食育基本法･母子保健法

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	25 千円	41 千円	100 千円	115 千円	165 千円
	合計	25 千円	41 千円	100 千円	115 千円	165 千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	町民	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	生活習慣病予防と食の充実により生活の質を向上する	食育関連事業参加者数の増		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	生活習慣病等を予防するとともに、潤いや楽しみがある地域特性に合った食生活を送ることができる	① 食育関連事業参加者数の増（平成20年度実績７４５人）	目標年度	平成21年度
			目標値	745 人
			実績値	676 人
			達成度	90.7 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	生活習慣病予防や生活の質の向上に資する食生活を送る町民が増える	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
食育関連事業の開催	離乳食教室･保育所児童を対象とした食べ物の話、成人対象の栄養改善教室などの集団支援及び健診における個別相談･支援
食育に関する広報	町ホームページ･献立表等による食育･栄養改善に関する情報提供

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■義務的なもの ■全部 □一部	食育・栄養改善に関する課題は、生活習慣病予防・生活の質の向上等幅広く関連があり、必要性が高い事業と考える。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

概ね有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 ■ほぼ達成 □下回る	乳幼児期の児童・保護者対象の事業においては一定の効果が認められている。今後は青年期・成人期を対象とした事業の充実が必要と考える。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

概ね効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	事業に要する経費は必要性を考慮し、効率的な運用に務めた。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	食育の基盤作りの上で重要な時期である、乳幼児期の児童・保護者を中心に事業を提供することができた。児童の家族を含めて将来的な事業効果が期待できると考える。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
乳幼児期の児童・保護者への事業は一定の効果をあげており、今後は青年期・成人期への事業の充実を図る必要があると考える。	同左	

今後の展開方向
（Action）

継続／拡充	継続／拡充	
乳幼児・保護者対象事業の充実に加え、成人期対象の事業についても、特定健診等他の事業実施時に関連して実施するなど充実を図る。	成人期対象事業の充実を図る	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）